

# 漢詩神奈川

## 2019年の活動に向けて

### 神奈川漢詩連盟会長 三村公二



三村公二会長

平成三十年の神漢連最大の行事は全日本漢詩連盟設立十五周年記念全日本漢詩大会を東京都／千葉県／神奈川県の共催で実施したことであろう。漢詩再興の大きなうねりをモットーとして開催したこの大会では吟道界、書道界、新聞社、日中友好協会等の連盟外諸団体とのコラボレーションが実現できたことが何よりも大きな収穫であった。詩吟、書、作詩とそれぞれ依って立つ位置は違っても漢詩大好きという共通の趣味を持つ人達が一堂に会して交流を深める事が出来た事は極めて意義深かったと思う。こうした取り組みを今後も継続していく事で漢詩再興が初めて大きなうねりになっていくのだと信じている。大会運営にご尽力いただいた各位にはこの場

を借りて深く御礼申し上げます。もう一つの大きな出来事は、一昨年の九詩期会の中国歴訪に続いて、神漢連全体として初めて中国旅行を実施した事である。西安で唐時代に活躍した日本人、阿倍仲麻呂や空海の足跡を訪ねたり、敦煌の砂漠で中秋の名月を鑑賞したりという名所・旧跡を訪ねる旅に加えて、特筆すべきは、西安交通大学の金中教授達と漢詩の日中交流会を持てたことである。金中教授のグループは現在、我々と同じように平水韻をベースとして作詩をしているが、平水韻による旧体詩は典雅ではあるが、生活への臨場感が不足していて生活実態が十分に詠えない等といった理由で、現代中国語に基づく新しい韻体系に移行しようとしている。図らずも、試行錯誤の過程にある中国漢詩愛好家の悩みの声を聞くことができたのは興味ある出来事であった。日本の漢詩界の基本姿勢は、伝統を守って肅々と平水韻で作詩を続

第 24 号

神奈川漢詩連盟  
事務局

神奈川県海老名市  
浜田町16-9

TEL-FAX  
046-233-7641

発行人 三村公二  
編集人 高津有二

けるという事であり、当日も先方にそのように発言してきたが、下記に述べる新しい流れにも関連して、世界の漢詩、愛好家の裾野を広げていくという観点から、今一度その在り方を見直していく必要があるのではなからうか。

昨年七月に文科省から出された高等学校学習指導要領の言語活動例欄に和歌や俳句と並んで「漢詩創作」が盛り込まれている。漢詩作法を指導できる高校の先生の数は限られているであろうから、まずは先生の教育から始めるという事になるだろう。任意団体である漢詩連盟がこの課題に参画できるかどうかという基本問題は残っているが、その対策としては今まで個々には決まっていたとしても、体系化、明文化してこなかった漢詩作法諸課題の再整備が必要になる。例えば、旧字／和語の取り扱いを含む漢詩規則の明文化、漢詩連盟としての詩語集の整備と漢詩作法のマニュアル化等々が必要になるだろう。神漢連が十二年間続いている初心者入門講座のノウハウ、現在、鋭意取り組んでいるパソコン漢詩がこれに役立つくれると良いなと思っている。

一方、神漢連内の課題として、この十年來営々と続けてきたいろいろな催し、特に参加者が少なくなってきたいろいろな行事を中心に、現在、運営委員会の皆様方に見直し・検討をお願いしている。早急に考え方を取りまとめ、二月の理事会に提案し、五月の総会で報告、会員の皆様のご了承を得て、又、新しいスタートをきる予定である。

# 連盟の行事

## 神漢連の運営課題と対応

事務局長 高津有二

今年、神漢連は、設立十二年目を迎えた。初代の中山会長、二代目の岡崎会長をはじめ諸先輩の方々の努力が実を結び、また、全漢詩連の石川会長からは「神奈川新様式」とお褒めの言葉を頂いたシステムにより、他県連に誇れる神漢連が実現できたことは、一後輩として感謝に耐えない。

また、岡崎前会長が提唱された「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」のモットーは、鑑賞会の講師の先生方のご尽力で、漢詩の詩作だけでなく、漢詩を楽しむという要素が加わり、着実に定着して来ていると確信している。

初心者入門講座は昨年で十二回を迎え、受講、入会する人も多数に上っているが、漢詩に関わってきた経歴や漢詩に求める思いも人それぞれである。また、神漢連として行ってきた各種行事が、果たして会員の皆さんの求めるものにマッチしているかどうか疑問視する声も数多く聞かれる。

そこで、毎月開催の運営委員会のメンバーをグループ分けして、次の四点について検討

をお願いした。

- ① 初心者入門講座とサークル編成、活動の在り方は現状でいいのかどうか。
- ② 神漢連として、詩力向上のための指導者をどのように養成するか。
- ③ サークル交流会(バトル漢詩甲子園)が、所期の目的である詩力向上、交流・親睦に役立っているか。また、研修会・吟行会の参加者減少傾向にどのように対処するか。
- ④ 鑑賞会の講師の先生方の高齢化について、どのように対処していくか。また、講演会の内容、講師についての希望は何か。

以上のような課題については現在、検討して頂いており、二月の理事会に提案し、五月の総会で報告、会員の皆さんにご理解を頂き、逐次実施に移して行きたいと考えている。

一方、既にご承知の通り、全日本漢詩連盟は昨年設立十五周年を迎え、「漢詩再興の大きなうねりを」をモットーとして、吟道界、書道界その他、連盟外団体との交流を深めて、漢詩大好き人間の一大結集を図る方針を打ち出している。全漢詩連を支える中核県連として、最大限のバックアップを図っていきたいと考えているので、会員の皆さんの絶大なご協力をお願いしたい。

## 第十二期干支会の発足

安田茂

我々干支会かんしは女性四名、男性三名の七名の小所帯ですが、皆さん個性豊かな漢詩愛好家で、三村会長、新井氏を講師に仰ぎ会員A氏の言葉を借りれば「格調高く情感豊かな詩作」に励みたいと全員張り切っております。

B女史の様に唐詩に魅せられ、漢字の魔力に魅せられて入会された方、またC女史の様に漢詩創作には四十年代半ばに一度挫折されながら、最近深く活眼され入会、西安・敦煌旅行にも同行された方、またD女史など「自詠の漢詩で書道作品を創作することが目標」という方も居られ誠に多士済済であります。

さて私はと言えば中国思想史と縁が深かったが故に漢字に対する想い入れは人一倍です。しかし一方漢字は既に長い歴史を経て、立派に日本語の重要な一部を構成していますので、李白や杜牧の詩の鑑賞は其の儘楽しむとして、漢詩の創作には日本の歴史を尊重し日本語を用いて創りたいと考えています。それはイギリス人やフランス人が詩を書く時、ラテン語で書くことを強要されない心情と似ています。

漢詩連盟にご縁を得たことを大変光栄に思っております。よろしくご指導の程お願い申し上げます。



干支会員と講師の方々

### 研修会

#### ―初心者も上級者も活発に討議―

平成三〇年度研修会報告

本年も恒例の研修会が選句方式で、十月十九日(金)と二十四日(水)の二回、近代文学館中会議室で行われました。両日とも十五首が提出され、各自の持ち点五点により特選、佳選の選句の結果、初日は芝公男さんの作品「蝸牛」が、二日目は岡嶋

宜昭さんの作品「秋日郊行」が高得点を得て、記念品が授与されました。今回の参加者は作詩経験三〜四年の方々の良詩が多く各期のグループでの勉強会の成果が結実していると思われました。(川上修三)



研修会での活発な討議

ミノリの刃を蝸牛這い行く」と短歌に詠み、それを漢詩に詠み換えてみました。

結句は老子の「柔之勝剛」と兵書の「柔能制剛」を平仄に合わせミックスして引用しました。研修会で転句の下三字は「餘涎足」にすればもつと面白い詩になると城田先生にご指導を頂きました。

#### 秋日郊行

秋日郊行

九詩期会 岡嶋宜昭

白雨一過残暑収 白雨一過残暑収まり  
爽涼田圃漫然遊 爽涼田圃漫然の遊  
薔花映発夕霞麗 薔花映発夕霞麗に  
隠隠疎鐘野寺樓 隠々疎鐘野寺の樓

この詩は、結句の「野寺樓」と題の「秋日」から、夕焼け空の郊外の破れ寺から鐘の音が、かすかに聞こえてくるというさびさびした情景をイメージし、表現しようとしたものです。

漢詩の世界を覗いて三年余、その広がり、奥深さは知るべくもありませんが、体育会系でオン・オフの世界に生きてきた私には、一つのものに幾通りもの表現があり、かつ、作者のレベルによって表現の深さが違うこの世界はとても魅力的です。

今回の研修会での評価は、大変励みになりました。まだまだ視界不良でウロウロしていますが、じっくり、手間暇をかけて勉強してゆきたいと思います。

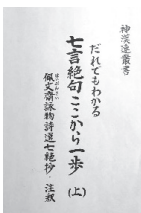
#### 「だれでもわかる 七言絶句」から一歩 ―(上) 佩文齋詠物詩選七絶抄・注釈― ―刊行間近!―

「七言絶句」ここから一歩 佩文齋詠物詩選七絶抄(平成二十七年神漢連出版)を購入された神漢連及び全国の県連の会員からは、自分で白文の各首を読んで理解するのは難しく、各首毎に読下しと判り易い語釈・通釈を求める声が多く寄せられていた。

この度、上平声の詩三〇四首について、神漢連内のベテラン会員である竹林舎の先生方(城田、飯沼、桜庭、故・田原、住田)が、平成二十七年から二十九年にかけて神漢連会員に講義した資料(詩白文・読下し・語釈・通釈、詩人略伝)に基づき、注釈書を本年度内に出版すべく準備が進められている。また詩人略伝は、唐から明までの代表的詩人一八七名を網羅しており、画期的である。

漢詩鑑賞の面では、日月山河・四季などの自然から、建物・書画・楽器・寺仏などについての代表的詠物詩を鑑賞することができる。作詩の面では、自分で何か詠物の詩を作る時のお手本となる。また本詩集では、各首は上平声の韻毎に並べられている為、各韻の代表的作例を学ぶ事ができる。

このように本書は七言絶句の鑑賞と作詩に大いに役立つ図書であり、まさに「だれでもわかる」を体現していると言えよう。(香取和之)



#### 蝸牛

蝸牛

八起会 芝 公男

刃上蝸牛些不慌

刃上の蝸牛些かも慌てず

徐匍到柄莫創傷

徐に匍いて柄に到るも創傷の莫し

微揺雙角對衆駭

微かに双角を揺らし衆の駭くに対す

正是柔之能制剛

正に是れ柔の能く剛を制するなり

カタツムリが鋭いカミノリの刃を這うのに驚き、以前「惑ひなき境地にあるや平然とカ

# 中国西安・敦煌ツアー —詩情育む思いと日中交流—

今回のツアーは住田相談役・三村会長を筆頭に、金星会、好文会、五友会、八起会、九詩期会、詩林会、干支会からの参加者で総勢は十五名となった。

昨年の九月十九日に出発し四泊五日の西安滞在に加えて、敦煌に足を延ばした六名は更に二泊を加えて二十五日に帰国した。

観光ではかなりの歩行を要した箇所もあったが、参加者全員このツアーを元気に楽しみ、日中漢詩交流も行い大変有意義であった。



ツアー参加者の面々 (秦始皇帝兵馬俑博物館にて)

(第一日)九月十九日(水)  
六時・羽田空港集合、羽田発↓北京空港で乗り換え↓十四時半・西安咸陽空港着。  
早速、専用バスに乗り込み、明代初期に建造され市内を囲む西安城壁に向い見学。唐代長安の都市配置の壮大さを知る。

(第二日)九月二十日(木)

西安最大の見所といわれる秦始皇帝兵馬俑博物館。始皇帝の陵墓を守る一ノ三号坑等からなる副葬品群は、広大な敷地内に往時の秦軍の威容を伝えている。その造営に必要とされた莫大な労力はとても想像できないほどだ。

昼食は、秦時代をイメージした料理を堪能。玄宗皇帝と楊貴妃が過ごした離宮として有名な華清池を次に訪問。長恨歌に詠われた楊貴妃のプールほどもある浴槽も見学。

碑林博物館では、拓本でしか見たことのない有名な石碑の数々が正に林立していた。大切に石碑が、目の前に意外と隣接して配置されているのには少し驚かされる。

碑林博物館近くの書院門古文化街で買物の後、興慶宮公園に向い阿倍仲麻呂記念碑を見学。遣唐使として中国に渡り、結局五十三年もの年月を過ごして望郷の念を抱いて逝つた仲麻呂に想いを馳せた。



阿部仲麻呂記念碑

(第三日)九月二十一日(金)

午前中は観光。空海が修行した青龍寺を訪ねて、空海記念碑、惠果空海記念堂等を見学。その後、中国有数の陝西歴史博物館では、大変な混雑の中、唐代陵墓からの貴重な出土品等を見学することが出来た。

午後からは西安交通

大学での交流会となり、校門前には、金中教授が我々の訪問を待っていた。広いキャンパスを流暢な日本語で案内して下さった。一般観光ではまず見ることが出来ないであろう白居易の住居遺跡を見学して、金中教授の部屋も拝見。その後、立派な大学施設の外交楼会議室にて交流会がよいよ始まった。

中国側は、他大学を含む大学教授、大学院生、大学生等の所謂研究者の面々。当方は漢詩愛好家ばかりで、やや緊張。

最初に金中教授、高津事務局長による双方の参加者紹介と開会挨拶に続き、第一部として日中の漢詩事情を説明して理解し合った。

まず三村会長が、全漢連と神漢盟の活動状況等を説明。

引き続き劉焯評西北大学教授から、中国の現状として、平水韻での作詩勢力と現代中国語による勢力があり、平水韻を用いるなかで現代の事象表現に悩むことがある等の詳細な説



白居易像の前で (西安交通大学内)



三村会長発言に聴き入る交流会出席者

明があった。三村会長からは、全世界に通用する解決方法を研究してほしいとの意見が述べられた。

次に、劉白楊西安詩詞学会会長、金中教授から西安の漢詩活動概況の報告があった。

第二部は吟誦交流。三上・小菅・飯田各氏が自慢の喉を披露したのに続いて、張珊西安音楽学院金花芸術学校教師(金中教授夫人)が唐詩朗誦を行った。最後に、住田先生が西安到着後に詠まれた次の詩を吟じた。

訪長安書懷

住田笛雄

安定門前槐樹林  
洗塵清雨綠森森  
遠來詩友黃昏路  
滋味郊墟散素襟

安定門前 槐樹の林  
塵を洗う清雨 緑森々  
遠来の詩友 黄昏の路  
滋味ある郊墟に素襟を散す



席上揮毫する上田さん

第三部は書道交流。中国側は日本側メンバーの漢詩を事前に揮毫した書作品を贈呈。日本側は村上・上田の両氏と牛山がその場で席上揮毫を行い、

中国側教授達に作品を贈呈した。交流会終了後は市内レストランに場所をかえて、蠍の素揚げ等の地元西安料理を楽しみながら、日中交流の輪を一層広げた。

(第四日)九月二十二日(土)



乾陵の参道を上っていく参加者

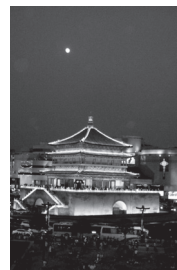
ことができた。

見学の最後は楊貴妃墓。反乱軍に追われこの地で自害を命じられたという。

この日の夕食は、西安都心に戻って餃子の宴。有名な鐘楼の上に明月が輝き、みな感激。

(第五日)九月二十三日(日)

西安咸陽空港で、敦煌を目指す六名は帰国組を見送り、十五時



鐘楼と明月

敦煌空港着。敦煌郊外の道路をしばらく走り、見渡す限りの地平線の彼方に玉門関・陽関を訪ねた。多くの名詩に詠まれた場所に立ち、感激して吟詠する参加者もいた。



陽関で(左端は名ガイドの翟さん)

組を見送り、十五時敦煌空港着。敦煌郊外の道路をしばらく走り、見渡す限りの地平線の彼方に玉門関・陽関を訪ねた。多くの名詩に詠まれた場所に立ち、感激して吟詠する参加者もいた。

(第六日)九月二十四日(月)

「砂漠の大画廊」といわれる莫高窟。伝説では三六六年から造営が続けられたという七百を超える石窟の中を、懐中電灯を片手に実際に見学すると、その精緻な美しさに驚かされ、窟の構造・彫刻の様式・壁画の画題等の時代による変遷がよくわかった。



敦煌訪問の六名(莫高窟にて)



駱駝に乗って、いざ鳴沙山に上らん

鳴沙山では駱駝に跨って砂丘を上り、砂漠に湧く月牙泉の不思議な光景を楽しんだ。夕食では駱駝の足の裏の脂身等を味わった。

その後、丁度中秋節となるため、月見の宴をやろうと再び鳴沙山に出掛けたが、終業で入園できずいたら、現地ガイドの好意で経営する民宿屋上で開宴が実現。異国での暗闇のお月見は、大変思い出深い経験となった。

(第七日)九月二十五日(火)

九時半・敦煌発↓北京空港で乗り換え↓二十一時半・羽田着。(牛山知彦)

**「遠い友 心の旅」**  
 心の通う友、陶淵明・庾信らの詩と人生を訪ねて — 市川桃子先生講演会 —

平成三十年十一月六日(火)神奈川近代文学館に於いて、明海大学名誉教授の市川桃子先生による「遠い友、心の旅」という題の講演会が開催された。会場は百名を越す来場者で盛会であった。

前漢から魏晋南北朝に到る二十余りの詩の紹介があり、地図や年表をはさみながら巧みなプロジェクト操作によって、人生について考えさせられる有意義で楽しい二時間であった。

まずは論語の「有朋自遠方來、不亦樂乎」の句の「朋」とは、朱子は「朋、同類」と言つて、朋とはいつも一緒に居る人ではなく、志を同じくする人、心が通う人、共感する人とあります。はるか遠い時代の心を同じくする朋がやってきたら嬉しい事ですね。それではこれから朋をたずねる旅に出かけましょう。

紀元前二百年、前漢の時代に入ると何処からか無名兵士の為の鎮魂歌が聞こえてきます。「戦城南」という



市川桃子先生

歌です。野に死んで埋葬されることもない私の為には烏よ豪泣してくれと訴えています。

為我謂烏 且為客豪  
 野死諒不葬 腐肉安能去子逃  
 民の民歌も聞こえてきます。恋人との仲を天に誓う「上邪」という歌です。  
 我欲與君相知 長命無絕衰・・・  
 天地合乃敢與君絕

次に魏呉蜀の三国時代を過ぎ東晋の時代になってきました。ここには後世の詩人たちの高標となる陶淵明がいます。陶淵明が生きた時代は東晋末期の社会情勢の不安定な時期で四十一歳の時役人生活を辞めて田園に帰り隠逸詩人として名を残しました。ここでは「飲酒二十首」の中から「其の五」の他、六首について部分的に紹介されました。

次に「形贈影」「影答形」という古詩があり人は儂いものだ。酒を飲み楽しく過ごそう  
 願君取吾言 得酒莫苟辭 (形贈影)  
 日頃善行を積んでおけば死後も愛が残される  
 立善有遺愛 胡爲不自竭 (影答形)  
 生死を超えて大化(宇宙)の運行に身をゆだねようと詠っています。

正宜委運去 縦浪大化中 (神釋)  
 最後に「閑情賦」という、願望と失望を物にたとえてユーモラスに詠じた賦がありました。  
 東晋の時代から下って南朝の梁の時代に入ります。これから尋ねる庾信の時代は梁が滅んで西魏・北周・隋と北朝に政権が移行する時代。西魏に囚われの身となり、官僚になることを求められるも荒々しい北方の文化になじめず、南朝に忠節を尽くして仕える気にな



熱心に聞き入る聴衆

れなかつた。その間「望郷」「不安」「異郷のやるせなさ」「無力」「落胆」の詩を次々に作っている。しかし足掛け三年の苦悩の後、次第に自分の運命を受け入れざるを得ないと思うようになる。その時代の指導者、宇文泰は人徳の指導者で庾信の考えも変わってゆく。悲嘆の淵に沈みながらも、前向きに新体制に協力して、流麗で妖艶な南朝時代の作風から勇壮なものへ変わっていった。

同廬記室從軍  
 連烽対嶺度 嘶馬隔河聞  
 箭飛如疾雨 城崩似壞雲  
 ほぼ二千年前の二人の詩人についての生き方は、興味深いものがあります。

陶淵明は、身を運命に任せて、自分の気持ちを大切に生き、庾信は二朝に仕えずの気持ちを転換して、自己の能力を北朝に注いで運命を切り開いたのです。

人生は短く、生き方はさまざまです。これを機会にもっとこの時代の事を知りたくなりました。市川先生有り難うございました。(水城まゆみ)

# 会員の活動とたより

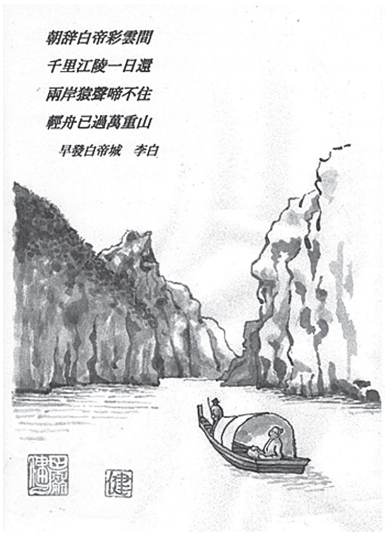
## 五友会「田原健一先生追悼詩集」出版

五友会 飯島敏雄

五友会は、田原健一先生には平成二十四年二月の第一回批正会から、約五年の長きにわたり、厳しさの中にも心に響くご指導を賜りました。

先生はその後、ご自宅の近くの公文書館で詩游会の指導をされ、五友会は住田笛雄先生の指導を受けることになりました。昨年六月に田原先生の訃報に接して驚くとともに心に穴が開いたような寂しさを痛感しました。

ここに先生のご冥福をお祈りするとともに、ご指導の恩に報いるために五友会としての第一詩集「田原先生追悼詩集」を出版いたしました。詩集は四十六頁で、五友会各会員の田原先生への追悼詩、例会で田原先生に批



田原先生の挿絵(早発白帝城、李白)

正された詩、例会の風景写真および教材に使われた、田原先生が漢詩を入れて描いた絵で編集されている。天上界より先生にご覧いただければ幸甚です。

## 「簾軒主人漢詩集二」刊行のご紹介

好文会 高津有二

この度、神漢連住田相談役(雅号 簾軒)が「簾軒主人漢詩集二」を刊行されました。八年前に第一集を刊行され、この八年間に約三百首を作詩されたそうですが、八十歳を記念して、八十首が集録されています。詩集は新年、春夏秋冬、羈旅、人事の項目に分類されており、いずれも素晴らしい七言絶句です。また作詩の背景のコメントに加えて、それぞれの詩を七五調の四行に纏められた訳詩がこの上なく楽しいものとなっています。

実は住田さんは、会社時代の先輩で、かつ公認会計士の資格をお持ちで、数字と横文字の世界では大変お世話になり、定年後は縦文字の世界(漢詩)でのご指導頂いています。

本詩集の掉尾を飾る玉詩を紹介します。

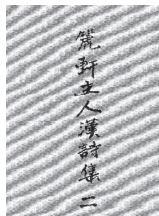
### 八秩偶成

居然八秩健而康 居然八秩健にして康

愛酒高吟却老方 愛酒高吟は老を却くるの方

日夕讀書詩亦就 日夕書を読み 詩も亦た就る

長生所望意軒昂 長生は望む所意は軒昂



人生百年の時代、百歳を記念して百首集録の詩集を心待ちにしているのは私だけではないと思います。

## 学士会理事長杯に石川省吾さん選ばれる

三水会 中島龍一

二〇一八年度の学士会の理事長杯は、裁錦会最優秀賞として、わが県連の理事でもある石川省吾氏が受賞されました。これは裁錦会の会員の投票により選定されたものです。受賞作品の律詩を紹介いたします。

黄河壺口瀑

芳雲 石川省吾

南下黄河危瀨限

南下の黄河危瀨の限

激波白浪作渦回

激波白浪渦を作して回る

濛濛飛沫襲人面

濛々たる飛沫人面を襲い

漠漠水煙濡蘚苔

漠々たる水煙蘚苔を濡らす

亂舞昇龍將喚雨

乱舞の昇龍將に雨を喚ばんとし

怒號落瀑宛招雷

怒号の落瀑宛かも雷を招く

巖頭獨立望天際

巖頭獨立し天際を望めば

千里凄寥奇石堆

千里凄寥奇石堆し

◇登竜門とも呼ばれ、この瀑を上った鯉は竜になるといわれる。

なお、裁錦会は学士会の中の漢詩同好会です。昭和六年に創立され、会員数三十名(女性四人)で学士館内で二か月ごとに活動しています。会員の作品は学士会報に掲載されます。神漢連からは六名が参加しています。

和氣藹然 詩恰成

八起会 妹背真理子 いもせ

私が初心者講座を受講したのは平成二十六年。きっかけは「今まで学校でしか触れることのなかった漢詩を、自分で作れるのか」。でも、自分の好きな近代文学館という場所で勉強がしたい!」でした。そして、当時二十代。前副会長の田原先生に「ぜひ、今から漢詩を作り、学ぶ事を続けるといいよ」と声をかけて頂いたことを今でも覚えています。

あれから四年……。とうとう十の位が変わり……。詩のほうは、今でも悪戦苦闘。しかし、ここまで続けてこられたのは、自分で漢詩を作れる喜びを知り、なによりも八起会メンバーの変わらぬ温かな心と、数少ない詩を「なかなかいいね」と言ってくださる中島先生に支えていただいているからです。

そんな私が所属する八起会は現在十三名(女性五名、男性八名)いつもどんなときも漢詩を楽しんでいます。自然を詠む、虫や動物を詠む、日々の小さな幸せを詠む、旅で出逢った素敵な出来事を詠む、幼いころを思い出して詠む、モダンな話題を詠むなどそれぞれが味わい深い個性豊かなメンバーです。

私はこの八起会のメンバーで本当によかった。この気持ちをお伝えするには「だれ漢」とにらめっこして漢詩を作ることだ……と思う日々です。

活到老学到老(生きてる限り学ぶ)

以文会 志村典子

六十歳退職後中国語の勉強を始め、中国残留孤児の為に何かお役に立ちたいと、自立指導員としてのボランティアを続けました。

中国語の学習後先生が漢詩の朗読、それを次週迄に暗誦して行く宿題で漢詩に興味を持つようになりました。自分でも作ってみたくなり旅に行った時の短歌等を基に、只漢字を並べて作ったりしていました。

その後難しい作法があるのを知り、新聞の入門講座案内を見て申込み、八十四歳の遅まき乍らの出発でした。振り返れば六年の歳月が流れ、漢詩は奥深くて益々難しく、落第生の私はやつとの思いで行って居ります。

でも短歌よりも想いを深く、一字一字漢字の持つ趣旨に魅かれて居ります。皆様の迷惑にならぬ様について行きたい思いです。「活到老学到老、一直到死学不了」と言う言葉を大連留学の時(六十二歳)に教わり、この「生きている限り学び、死ぬ迄学びきれない」に支えられ、九十歳の今日迄歩いて来しました。最後に先月、卒寿を迎えての蕪詩を一首。

九十歳有感

親朋相集菊華筵

親朋相集う菊華の筵

懷舊茫茫九十年

懷旧茫茫九十年

世途波瀾如夢裡

世途の波瀾夢裡の如く

何忘感謝古今縁

何ぞ忘れん感謝古今の縁

九十歳迄こんなに長生きするとは思ってもみず、只々感謝あるのみです。

台湾に移り住んで

七歩会 山岡健郎

老後をノンビリ過ごそうかと台湾に来て二か月、台湾人にとつて漢詩はどんなものかと会う人々に聞いてみた。ちなみに台湾・中国で漢詩と言っても通じない。「唐詩」です。

九十九%が「学校で習ったが興味なし」。小学校(國民小學)の教員の陳女史が反応し、日本で唐詩を勉強していると言うと大喜び。

台湾では小學六年間で百首を学び暗誦すること。副読本を見せていただくと、李白の静夜思から始まり、春曉、楓橋夜泊等知られたものから、白居易、李商隱、賀知章とバラエティに富み、五絶七絶、律詩、古詩、詞と形式も様々。作品の説明が的確で分かりやすい。質問がついていて、子供に考えさせながら詩意の理解を助けている。韻や形式には言及がない。五年生の子愉ちゃんと何首か一緒に読み、日本の読下しも教えてあげて楽しいひと時だった。

では作詩する人はいないのだろうか? 実はいないのだ。まだそういう方にお会いしてないが、文学コンクールでは、小説・散文・現代詩・古典詩とジャンルがあり、古典詩は七律の作品が多数載っていた。この辺は次回機会があればお知らせしたい。



# 漢詩鑑賞会A五十回を迎えて

漢詩鑑賞会A事務局 齋藤 護

漢詩鑑賞会Aに関してには神漢連会報第二十二号に、佐藤恵子さんが「漢詩鑑賞会Aと私」を書かれていますので、それを読んで頂ければその雰囲気がお分かりになると思います。

そもそも燧翁玉井先生の漢詩鑑賞会は横浜市栄区の生涯学習の一環として地区センターで平成十八年に先生編集、自費出版の「漢詩を楽しむ」をテキストとして使った鑑賞会が始まりで、その後「唐詩選を読む」会となり唐詩選七言絶句百六十五首をすべて読破、更に「唐詩二百首」から七言絶句六十首を読み終えました。そして平成二十六年一月から神漢連の講座としてアースプラザ大会議室にての漢詩鑑賞会Aとなったものです。

横浜市南部の郊外で市井の漢詩人が毎回五十人を超す聴講生を集めるといふ人気の講座となっています。毎月一回、三時間の講義をマイクも使わず凍としたお声で大会場の隅々まで響き滔滔と話される姿はとても卒寿を超えたお人とは思われません。

これまで孟浩然、李白、杜甫、白楽天、王維とそれぞれ十回(一年間)以上を費やし詩人の生涯、人となり時代背景を織り交ぜながら各詩人の作品にとどまらず関連する他の詩人の詩をも取り



玉井先生への感謝の花束贈呈

上げ、精緻にしかもユーモアを交え講義される内容は大学の名講義に匹敵するものです。本年九月からは七言絶句の名手で軽妙洒脱が持ち味の杜牧に入り、いよいよ佳境を迎えました。乞うご期待です。

ここで、去る十一月二十二日に開かれた五十回記念酒宴で玉井先生が詠まれた玉詩をご披露致します。

## 漢詩鑑賞五十回偶成

平成戊戌十一月 燧翁 玉井幸久

詩林集友醉唐風 詩林に友を集いて唐風に酔い

五載耽盤歡未窮 五載の耽盤歡未だ窮まらず

李杜王劉柳元白 李杜王劉柳元白

交披高韻藻筵中 交披高韻を披く藻筵の中

## 漢詩総合サイト「搜韻」の紹介

十期会 薦 清昭

昨年漢詩鑑賞会Cで搜韻を紹介されるまでは、いくつかのサイトを巡りながら作詩していた。今は搜韻と神漢連電子詩語集で作業をほぼ完結できている。

搜韻は二〇〇九年に開設されたサイトで、一一〇カ国から一日約二万四千人が訪問する。日本からの訪問者も毎日数百人。

特に有用な機能を三つ示す。

・全唐詩など八〇万首を超える詩詞のデータベース(七絶に限ると、約十七万首。支、先、陽、庚、真、尤、灰韻の順に収録詩が多く、それぞれ一万首以上) 条件を絞り込んで詩語

の用例検索として使うことが多い。豊富な用例は大いに参考になる。

・「漢語大詞典」「康熙字典」「典故大全」「歴代詩詞庫」「佩文韻府」「詞林正韻」との整合を取った「韻典」。韻書としてだけでなく、「漢語大詞典」を取り込んでいることで詩語辞典としても使うことが出来る。

・自作の七絶を入力すると、禁則を犯していないかチェックしてくれる「律詩校検」。問題がある場合は代替の詩語を提示してくれる。

漢詩関連の七千点を超える電子書籍を閲覧できること、収録されているデータが相互に関連づけられていること、なども他のサイトには見られない特徴である。

「搜韻」(または「搜韻」「sou-yun」)で検索し、サイトに入つて是非種々の機能を確認していただきたい。

搜韻にない強みを持っている神漢連電子詩語集(「詩語集A」)は、神漢連ホームページ↓漢詩作りには有用なサイト↓詩語集会員専用とたどり、パスワード「kanishi」が入ったページにある。同じページに「搜韻の概要」「搜韻を使つて見る」もあり、搜韻を使う上で参考となろう。

## 訃報

■神奈川漢詩連盟の会員藤野破摩雄氏は平成三十年十一月二十日に逝去されました。(享年九十一歳)ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

# 小特集 —漢詩鑑賞入門

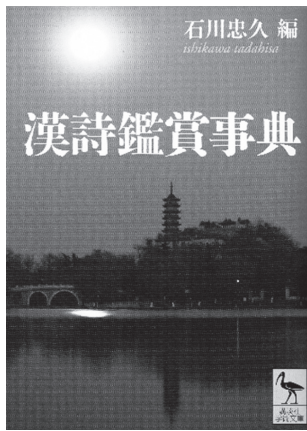
神漢連では漢詩鑑賞のため、年二回の講演会や各種鑑賞会を開いており(下記一覽表参照)、多くの会員が参加している。一方で、これら講演会・鑑賞会は平日の午後に参加されており、仕事などの理由で参加できない方々もおられる。今回の小特集は、これらの方々と漢詩初心者を対象として、自宅での「漢詩鑑賞入門」の主な方法を紹介するものである。(香取和之)

## 漢詩の一冊

### 「漢詩鑑賞辞典」(石川忠久編)

以文会 香取和之

漢詩を始めて、どのような図書がお薦めかを先輩に尋ねると、「唐詩選」いや「杜甫」「陶淵明」…と次々に名前が挙がり、各種詩人の詩集を買い求めていくと、いつの間にか数十冊いや百冊を超えて、めったに読まない漢詩集の山になるという経験は、私だけではないと思われる。漢詩鑑賞を体系的に



やる為には、先ず基本となる一冊を繰り返し玩読することが大切であり、石川忠久先生編の「漢詩鑑賞辞典」(講談社学術文庫)がそれにあたる。名前は「辞典」となっているが、詩経に始まり、東晋の陶潜、唐の王維・李白・杜甫・白居易や、宋の蘇軾・陸游から清、そして日本の漢詩まで、年代別に代表的な詩人百九名の有名な古詩・律詩・絶句など約二百五十首が採り上げられており、いわゆる解説付きの詩集である。

各詩には、白文・読下し・通釈と共に、詳しい語釈と鑑賞の要点説明、さらに補説がついている。初心者にとっては詩を読んでも、その詩の素晴らしさや、鑑賞すべき要点が分からないことが多いが、本書はこれらの悩みを一挙に解決してくれる。さらに補説では、詩の背景、関連する詩も説明している。また詳しい詩人伝記がついているのも有難い。これらにより、詩への共感が深まり感激も増す。

我々初心者がまず重視する七言絶句は、凡そ百二十首が掲載されており、繰り返し読めば暗誦出来る。その結果、自然と起承転結の流れや優れた表現が頭に入り、鑑賞と共に作詩にも役立つ結果となる。

自分が気に入った詩人の詩集を読み漁るのも大切だが、漢詩鑑賞をこれから息長くやっていこうとする初心者にとって、本書はまさしく「漢詩の一冊」である。

### 漢詩講演会一覽(会員以外も聴講可)

名称	講師(従来)	開催時期	会場	問合せ先	概要
総会漢詩講演会	石川忠久先生	5月末頃	神奈川近代文学館	高津有二 046-233-7641	H29年「陸游の詩」、H30年「白楽天の詩と人生」
秋の漢詩講演会	市川桃子先生	11月末頃	神奈川近代文学館	高津有二 046-233-7641	H29年「蓮の花の運命」、H30年「遠い友 心の旅」

注)メールアドレス、高津：yutakatsu626@nifty.com

### 漢詩鑑賞会一覽

名称	講師	曜日・時間	会場	問合せ先	概要
鑑賞会A	玉井幸久	第4木 13:15-15:45	地球市民かながわ プラザ(本郷台)	瀧川智志 045-516-1234	唐詩を順次鑑賞。孟浩然、李白、杜甫、白楽天、王維を終え、現在杜牧の詩と人生を解説中。
鑑賞会B	住田笛雄、他	第4金 13:30-16:30	県民センター	川上修己 042-745-6906	5月からは中国名詩選を教材として、輪番制の漢詩鑑賞を予定。
鑑賞会C	城田六郎、桜庭慎吾、 住田笛雄、三上光敏	第4火 13:30-16:00	神奈川近代文学館	川上修己 042-745-6906	「七言絶句ここから一步」に基づき、毎回12首を白文から読み解く。
霧笛女子会	古田光子	偶数月、第1火 13:00-15:00	県民センター	水城まゆみ 0463-87-2657	女性詩人、女性の関係する詩を中心に解説。

注)メールアドレス、瀧川：takigawa.ty@jcom.zaq.ne.jp 川上：kwkm23312@tbz.t-com.ne.jp 水城：mmizuki@kfz.biglobe.ne.jp

漢詩鑑賞お薦め本閑話

詩游会 新井治仁

「人生はままならないものだ。ままならないのが人生だ、と言つてよい。」で始まるこの書き出しに惹かれて、手にしたのが、漢詩を初めてしばらくしてからであった。

もともと、中国文学に興味はあったのだが、戦後の昭和育ちの通弊で、蟹行の書を優先して、翻訳ものに青春を費やすことが多かった反省も含め、退職後は原点復帰でたどり着いたのが、漢詩の世界であった。

漢詩づくりの基礎が叙景のデッサンであることは、言うまでもないが、少し花鳥風月の繰り返しに厭いでいたところ、「人生」を題字に掲げて真正面から取り上げていることに、単なる解釈本ではない新鮮さを感じた一冊が、「漢詩と人生」(石川忠久・文春新書)である。

目次を見ていただく。①ままならない人生。②老いて思う。③家族の絆。④閑適のくらし。⑤憂いを払う玉箒。(酒の詩)⑥出会いと別れ。

漢の武帝から日本漢詩まで味わい深い三十六詩を選び、作者の感慨も込めて鑑賞している。まさに、「終の趣味」として漢詩に出会い、いつでも、どこでも座右にあって、読み返すに適した手ごろな一冊だ。なかなか全集や大書を通読する時間も根性もないし、積ん読本が部屋に溢れる現状では、上着の内ポケットに入れて、繰り返し読めるような一冊を探し、電車や、枕辺で使えるのが良い。

そのほか、以下の各書は、折に触れて、乱読する鑑賞本である。

- ①「新唐詩選(前編)」吉川幸次郎・岩波新書
- ②「唐詩概説」小川環樹・岩波文庫
- ③「杜甫ノート」吉川幸次郎・新潮文庫
- ④「漢詩を読む一〇〇選シリーズ」石川忠久・NHK(春・夏・秋・冬の詩、李白・杜甫・白楽天など)

また、今年、「中国名詩集」井波律子が文庫本(岩波現代文庫)になったので、再読している。また、漢文学習書では、「漢文の話」吉川幸次郎(ちくま学芸文庫)のほか、「漢文法基礎」加地伸行(講談社学芸文庫)が為になる。後者は受験生向けとしているが、実は漢字文化論にもつながる面白い読み物です。

NHKラジオ講座「漢詩をよむ」

以文会 大森列子

放送日 土曜日午後八時三〇分〜九時  
再翌週 土曜日午前十時〜十時三〇分

何といつても漢詩を身近にしてくれるありがたいツール。ラジオのボタンを押すだけで加賀美元NHKアナウンサーの朗読と、國學院大學赤井益久学長の講義(昨年十月から本年三月は、「詩人達の肖像―江湖にうかんで」を暑かろうが寒かろうが居ながらにして受講できる。自分の都合に合わせて聴けるときに美しい表紙絵のテキストを手にとって耳を傾けるだけで古典の世界へ誘ってくれる。

半年ごとにテーマを分けて春山、秋水、青雲、閑適、田園、都城、あるいは長恨歌、名勝遊歴、喜怒哀楽など趣向が次々に変わり飽きさせない。多種多様な詩に出会える。すべて理解できるかと言えば難しく不消化のこともあります。歯疎頰齡の筆者は聞き逃してしまいうことも、途中で寝てしまうこともあり、必ず聴かなければ無意味というものではない。今ではスマホでオンデマンドでも可。読んでも得られる以上のことが解り、専門家の解説だからこそ深読み、なるほどに出会う驚きがある。折に触れての詩の種類、形式、構成などの説明もあり、赤井先生の中国語での朗誦も。

この講座は一九八五年当時二松学舎大学教授の石川忠久先生に始まり、三十年以上の長寿番組。今となつては聴くきっかけも忘れ、数年もの中断があつたにもかかわらず聴き続けられるのは何といつても漢詩の魅力である。

漢詩鑑賞会Bの現状と今後について

テキスト「聯珠詩格I」に基づく詩の鑑賞と詩法についての勉強が四月に終了します。五月から新たなテキストにて鑑賞と実作を続けることになり、参加を期待しております。

新テキストは「中国名詩集」(井波律子著 岩波現代文庫)です。(川上修己)

# 漢詩と私

玉井幸久

戦前の中学は五年制で、その二年の途中から週一回の漢文の授業が始まったと記憶しています。私の在学した当時は、すでに漢文は理系の上級学校の入試科目から外されており、そのせいもあつてか授業はやや気軽に楽しく聴いていたように思います。内容は先ず論語等の短い文章から入り、高学年では十八史略等が中心となりました。春秋呉越の戦いの臥薪嘗胆や会稽の恥のあたりは面白く、鮮明に記憶に残っています。

漢詩は幾篇学んだか記憶が曖昧なのですが、張継の「楓橋夜泊」朱熹作(と当時は云われていた)の「偶成」広瀬淡窓作の「桂林莊雜詠示諸生」などはよく記憶に残り、「階前の梧葉已に秋声」とか「君は川流を汲め我は薪を拾わん」などの句を諳んじて、時に口ずさんだりしていました。漢詩の持つ心地よい語調に何となく惹かれていたのでしょう。ただ残念ながら韻や平仄については教わった記憶がありません。

後年仕事の関係で度々中国を訪れるようになって、旅のつれづれに唐詩選や三国志演義などを読むうちに、漢詩を作れるようになれば、中国滞在もより楽しかろうに思うようになりました。早速作詩入門書を買集め、

仕事の合い間に読み始めたのが私の作詩入門となりました。ただ独学の悲しさ、当初は入門書の内容が仲々理解出来ない有様で、自己流の漢詩らしき物を作っては、交渉相手との交歓の手だてとしたりしていました。

退職を機に裁錦会に入会し、先輩方の厳しい批判を受けられるようになったことは誠に有難いことでした。自分の詩力の未熟さを痛感させられ、大漢和辞典と佩文韻府を揃えて座右に置き、やや気合を入れて唐詩選を読み直しました。それまでは古詩には齒が立たず、七絶にとどまっていたのですが、今度は古詩から入り律詩や排律を含め、詩語の意味を辞書で確認しながら読み進めました。

次第に苦吟を楽しむ心境に達した頃、湘南吟社に加わり、更に神漢連には発足と同時に入会し、多くの詩友を得ることが出来ました。こうして全く退屈する暇もなく、楽しい第二の人生に移行することが出来たこと、ひとえに漢詩の賜だと思っています。

漢詩は、読んでよく吟じてよく書いてよく作つてよく、浅く接すれば浅く深く接すれば深く、押しつけもせず出し惜しみせず、求めに応じていかようにも楽しみを提供してくれる、人生最高の伴侶といえるでしょう。最近いわゆる団塊の世代の退職期を迎え、漢詩に興味を持つ人が増加しているようですが、この人達を温く迎え入れ、楽しみを共にしたいものです。

漢詩の楽しみは、先ず先人の詩を読み鑑賞

することから始まりますが、この楽しみが際限なく奥が深い。先ず詩の格調に触れ、作者の心に共感する楽しみ。また作者の生い立ちや境遇、当時の時代背景などを知り、歴史のひとつこまとして鑑賞することも出来ます。更にはまた、詩中に鏤められた典故を探り、悠久の歴史に遊ぶという最高の楽しみも待っています。

美しい漢詩を数多く鑑賞することはまた、作詩力向上の必須条件でもあります。乳児が母の言葉から言語を覚えるように、詩の格調は格調高い詩に触れ自ら感得する以外に学ぶ近道はありません。唐詩選、三体詩、聯珠詩格等に続き李白、杜甫、王維、白居易等、詩の巨人達の作品を深く鑑賞したいものです。

さて作詩の楽しみですが、禮記に「詩は以て志を道う」とあり、その意味を大漢和辞典は「詩歌をうたうのは己の持っている心を表すためである。詩は人の感情を明白に述べる。」と訳しています。作詩の基本を学習するという、やゝ厳しい時期を経なければなりません。基本を習得した後は、単なる詩語の羅列ではなく、自らの心の叫びを漢詩の美しい韻律に従って結晶させたような、格調高い自分の詩が作れるように精進したいものです。



# 神漢連会員「全国漢詩大会」で大活躍

(通常のPCで対応できない旧漢字は常用漢字を用いています。)

## 平成三十年度 全日本漢詩大会 全日本漢詩連盟設立十五周年記念大会



全日本漢詩連盟石川会長のご挨拶

### 優秀作品受賞に憶う

このたび全十五記念漢詩大会(東京)にて思いがけずも特別賞(全国漢文教育学会会長賞)をいただきました。何分初めての受賞に唯おどろき、身に余る光栄と日頃ご指導頂く神奈川県漢詩連盟の先生方に感謝を申し上げます。漢詩の初韻は十二年前、古稀を過ぎていました。以来詩材はどこにでもありと心得、日常の中で詩情を感じれば詠んでみる、折々の風懷を吟ずる日々を過ごしている裡、横浜と北鎌倉辺りを流れる近くの颯川の花時、その昔に亡妻と共に散歩した頃を偲んでの作となりました。承句の雙鳧と結句の孤杖に共感していただけた石川忠久先生の選評に接して、感銘を深くいたしております。

これからも漢詩鑑賞会Aと颯水吟社での玉井幸久先生、詩游会の住田笛雄先生のご指導をいただきながら、今回の受賞を励みに更に精進を重ねたく、今後ともよろしくお願いいたします。

俣野長生

### 全国漢文教育学会会長賞

河畔偶成

櫻花爛漫映江流

歲歲雙鳧此復游

翁媪相攜去年路

低徊孤杖奈春愁

河畔偶成

櫻花爛漫 江流に映え

歲々雙鳧 此に復た遊びたり

翁媪相携えし 去年の路

低徊する孤杖 春愁を奈せん



石川会長より俣野さんに表彰状授与

### 秀作

廢田秋景

廢田秋景

生駒裕子

水田人去久無耕

水田人去つて久しく耕す無く

極目草深傷客情

極目草深くして客情を傷ましむ

憶昔豐年秋社日

憶う昔豐年秋社の日

破顔相酌滿歡聲

破顔相酌んで歡聲滿つるを

### 入選作品

引地川畔

引地川の畔

板本健作

寒冷江頭小徑通

寒冷の江頭小徑通じ

折芦枯葦戰霜風

折芦枯葦霜風に戦ぐ

一雙白鷺雪然下

一雙の白鷺雪然と下り

寂寞數聲流水中

寂寞數聲流水の中

本漢詩大会は、

神漢連も東京都・千葉県の漢詩連盟と共に主催者であり、多くの神漢連会員が各種業務を担当した。また、「神奈川県漢詩連盟会長賞」が三村会長から、受賞者に授与された。



三村会長より神漢連会長賞を授与

第二十二回全国ふるさと漢詩コンテスト

優秀賞

夜尋蘭若

夜蘭若を尋ぬ

小嶋明紀子

獨訪深山認一燈

独り深山を訪ねて一灯を認む

禪房半夜自清澄

禪房半夜自ら清澄たり

織雲散後見何物

織雲散じて後何物をか見る

月照縮衣默坐僧

月は照らす縮衣默坐の僧

第三回漱石記念漢詩大会・熊本

優秀賞

斷梅

斷梅

池上一利

霖雨浹旬沾碧苔

霖雨浹旬碧苔を沾す

今朝天外初聞雷

今朝天外に初めて雷を聞く

冥雲忽去斷梅日

冥雲忽ち去る断梅の日

籬落槿花奢白開

籬落の槿花白を奢って開く

詩遊会では毎年漢詩カレンダーを作成している。昨年度は七月を担当した。写真は隣家の家のムクゲを撮影した。作品を窪寺先生に差し上げたところ折り返し、もっと推敲を重ねるよう懇切丁寧なお手紙を頂戴した。

昨年は一月から入退院の繰返しで、詩もほとんど作らなかつたので、応募作は一年前の旧作を先生のアドバイスを基に完成させた。端無くも立派な賞を戴き、窪寺先生には深く感謝する次第である。

優秀賞

山居偶詠

山居偶詠

小嶋明紀子

淡靄初晴衆嶽蒼

淡靄初めて晴れ衆岳蒼たり

獨聞蟬韻倚繩牀

独り蟬韻を聞いて繩牀に倚る

幽居自喜無長物

幽居自ら喜ぶ長物無きを

溪上閑閑風送涼

溪上閑々風涼を送る

栄えある賞を頂きました。石川忠久先生、漱石記念漢詩大会の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。本大会は、詩題が自由であるので、何を詩題にするか、毎回迷いますが、今回は「山居」に焦点を合わせ、清涼感を前面に出そうと決めました。

従来、一首の中でのストーリーの展開と、詩語の選び方にはかなり神経を使っています。この作品は、起承転結をはっきりさせつつも、自然な展開にするにはどうしたら良いか、悩みながら作り直しました。中国の泰山・峨眉山などに登った時の、清澄で厳かな雰囲気にも包まれた景色も懐かしく思い出されました。私が講師役を務めさせて頂いている「漢詩

創作研究会」も、皆様のお陰を持ちまして三周年を迎えました。今後も、精進して参りたいと存じます。

入選

春林啼鳥

春林の啼鳥

上田尤子

櫻雲萬朶一川平

桜雲万朶一川平らかに

黃鳥誘吾吟蒲輕

黄鳥吾を誘うて吟歩軽やかに

碧水潺湲心氣爽

碧水潺湲として心気爽やかに

東郊行樂夕陽傾

東郊の行樂夕陽傾く

深夜苦吟

深夜の苦吟

杉森千枝子

三更案句北窓前

三更句を案す北窓の前

如勵如催刻漏傳

励ますが如く催すが如くにして刻漏傳う

未就七言詩一首

未だ就らず七言詩一首

寒燈耿耿夜綿綿

寒灯耿々夜綿々

訪平泉

平泉を訪う

久川愛子

舊址登來高館丘

旧址登り来る高館の丘

渺茫田野遠山幽

渺茫たる田野遠山幽なり

蕉翁濺淚興亡處

蕉翁涙を濺ぎし興亡の処

碧草萋萋江靜流

碧草萋々として江靜かに流る

岩村順一

墨江哭溘逝妻

墨江にて溘逝せる妻を哭す

櫻花灼灼墨江麗

桜花灼々として墨江麗し

柳糸依依青旆輕

柳糸依々として青旆軽やかなり

共泛扁舟君不見

共に扁舟を泛べし君見えず

滿眸春色却無情

滿眸の春色却つて無情

第十回諸橋轍次博士記念漢詩大会

新潟県知事賞

蘭亭懷古

蘭亭懷古

溶溶曲水映韶光

溶々たる曲水韶光に映ず

佳句染箋漂墨香

佳句箋を染め墨香を漂わす

晉代烏衣開宴處

晋代の烏衣宴を開きし処

騷人今日共流觴

騷人今日共に流觴す

小嶋明紀子

奨励賞・読売新聞新潟支局賞

川上修己

茅廬夜雨

茅廬夜雨

草屋棲遲庭樹深

草屋棲遅庭樹深し

梅霖浙瀝鬱陶心

梅霖浙瀝鬱陶の心

獨斟竹葉孤燈下

独り斟む竹葉孤灯の下

律呂高低檐滴音

律呂高低檐滴の音

奨励賞・TeNYテレビ新潟賞

池畔蓮花

池畔蓮花

荷風颯颯滿池塘

荷風颯々池塘に満つ

燕子翩翩弄水光

燕子翩翩水光に遊ぶ

馥郁清香入雙袂

馥郁清香双袂に入る

逍遙忘刻動詩腸

逍遙忘刻詩腸を動かす

村上良明

秀作賞

燕子

燕子

呢喃乙鳥築新巢

呢喃の乙鳥新巢を築き

飛去飛來萬里翱

飛び去り飛び来り万里を翱る

哺罷瘠親肥乳燕

哺を罷め親は瘠せ乳燕は肥る

林端三羽脱柔毛

林端の三羽柔毛を脱す

三上光敏

2019年の全国漢詩大会の予定

奮って応募しよう!

詳細は、Google等で各大会を「検索」。

漢詩応募規定・用紙は、各大会のホームページから入手できます。

●2019年度全日本漢詩大会・香川大会

十月十八日 高松市

詩題「道・路・径にかかわるもの」、自由題も可

応募期間 二月一日～四月三十日

●2019年度全日本漢詩連盟「扶桑風韻」漢詩大会

漢詩大会

詩題・応募期間 未定(会報二十五号に掲載予定)

掲載予定)

応募資格は全漢連正会員及び準会員

●第二十二回全国ふるさと漢詩コンテスト

(多久市主催)

詩題と応募期間は三月頃決定予定

●第四回漱石記念漢詩大会

十二月七日 熊本市

自由題

応募期間 四月一日～六月三十日

●第十一回諸橋轍次博士記念漢詩大会

応募期間等日程未定 三条市



# 神奈川県漢詩連盟 2019年の行事予定

カレンダーに予定を記入しましょう

## ●初心者入門講座 漢詩の鑑賞と実作(全五回の講義と実習、第十三期生)

漢詩に関心のあるお友達に声をかけ、推薦して下さい

期 日 ①四月十六日(火) ②四月二十四日(水) ③五月八日(水)

④五月二十二日(水) ⑤六月五日(水)

時 間 午後一時三〇分～四時三〇分

講 師 三村公二会長他 連盟役員

場 所 神奈川近代文学館

問合せ・受講申込(連盟事務局) 〒243-0412 海老名市浜田町十六一九 高津有二

TEL/FAX 046-233-7641 Mail yutakatsub626@nifty.com

## ●総会・講演会・懇親会

期 日 五月二十九日(水)

時 間 午後一時～四時三〇分(総会・講演会) / 五時～六時三〇分(懇親会)

場 所 神奈川近代文学館(総会・講演会) / KKRポートヒル横浜(懇親会)

総会議題 平成三十年度事業報告、2019年度活動計画、他

講演会 演題未定

参加申込 総会は申込不要。懇親会出席の方は、四月初旬発送予定の開催案内

同封の振込用紙で振込み願います。

## ●研修会 秋の予定、詳細は次号二十五号にて

## ●吟行会 未定、詳細は次号二十五号にて

## ●秋の漢詩講演会 詳細は次号二十五号にて

## 編集後記

昨年は、神漢連主催の中国ツアーが催行されたが、一昨年の九詩期会「中国江南漢詩ツアー」に続いて参加することが出来た。

サークル単位での九詩期会の新しい試みが、連盟レベルでの活動に引き継がれたことは誠に意義深い。単なる観光旅行ではなく、中国側との交流会実施や漢詩に因んだ名所旧跡の訪問などの工夫を凝らした企画は、今回も引き続き行われた。

一昨年、第一歩を踏み出した九詩期会山口代表や日中協会梅村さん、その他会員各位のご尽力には、本稿を借りてあらためて感謝したい。

神漢連の種々の既存活動も、先輩方の発案と実現に向けた努力の積み重ねであろう。会員自身が主人公となった企画・改善・参加・実施された活動になれば楽しさは倍増する。

連盟から与えられた活動に参加するのみならず、遠慮なく提案・企画・実施すれば同好の士や連盟が応援してくれるはずだ。このような動きが連盟の中で継続発生していけば、神漢連はその幅を広げて、より楽しく遊び、よりよく学ぶ団体に成長していくと思う。

今回の中国ツアーに同行した愚妻は神漢連会員ではないが、帰国後の感想は「みんな楽しそうによく笑うわね」でした。今回のツアーは、参加者が主人公になれた活動だったのだなと感じた次第です。

(牛山知彦)